

商店街名：笠寺観音商店街振興組合（名古屋市）

キャッチコピー

ウォーカブルな街、笠寺

◎ 商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2025年度頃）

商店街の位置する笠寺町の高齢化率は31.99%(2022年)で名古屋市平均の24.97%を大きく上回る。一方20歳未満人口は12.9%で名古屋市平均の15.6%を下回る。しかしながら、南区の学区の中では世帯数、人口とも最も多くなっている。(2020年10月現在)



◇商店街の姿

現在の商店街利用者の中心世代である高齢者の利便性に配慮しつつも、将来を見据えて次世代を呼び込むために何をすべきかを探るため、様々な角度からの取組を試行し、実績を積み重ねていく必要がある。

◇地域の状況（2030年度頃以降）

2020年の人口分布を見ると20歳未満の人口が他の世代と比べ極端に少ないため、自然動態だけを考えると10年後にはさらにその傾向に拍車がかかることが明らかであり、商圈はますます縮小していくことが想定される。



◇商店街の姿

自然動態だけでは商圈が縮小していくため、関係人口も含めた人口の社会増を実現する必要がある。そのためには、子育てをしやすい街にしていく必要があり、その象徴的な姿が「ウォーカブルな街」であり、そこを目指して取り組んでいく。

◎ 未来の商店街の姿に至る方法（プロセス）

【構想計画期間：2024年度～2025年度】

2022年からウォーカブルな街を目指して数々の社会実験を繰り返しながら、地域の声を吸い上げている。机上のアンケートに留まらず現実にやって見せることで、より具体的なニーズを把握することができ、その積み上げによってウォーカブルな街に一步步近づいていくと考えている。

◎ 実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：若手店主5名を含む計10名

(2) 地域プラットフォーム

名称：かさでらピクニック実行委員会

目的：ウォーカブルな笠寺の実現を目指し、社会実験やイベントを企画運営する。

参画：店主、地域住民、学校

◎ 想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

2022年に実施したウォーカブルな街を目指した社会実験では、商店街としては初めて駅前通りを通行止めにして、芝生広場、マルシェ、本箱などを配置し、安心して過ごせる空間を演出した。利用者には、普段はあまり見かけない子ども連れの家族の姿を多く見かけた。アンケート結果からは、商店街を訪れる目的として、散歩、買い物、イベントがそれぞれ1/3ずつであり、これらのニーズを均等に満たす商店街が求められていると考えられる。